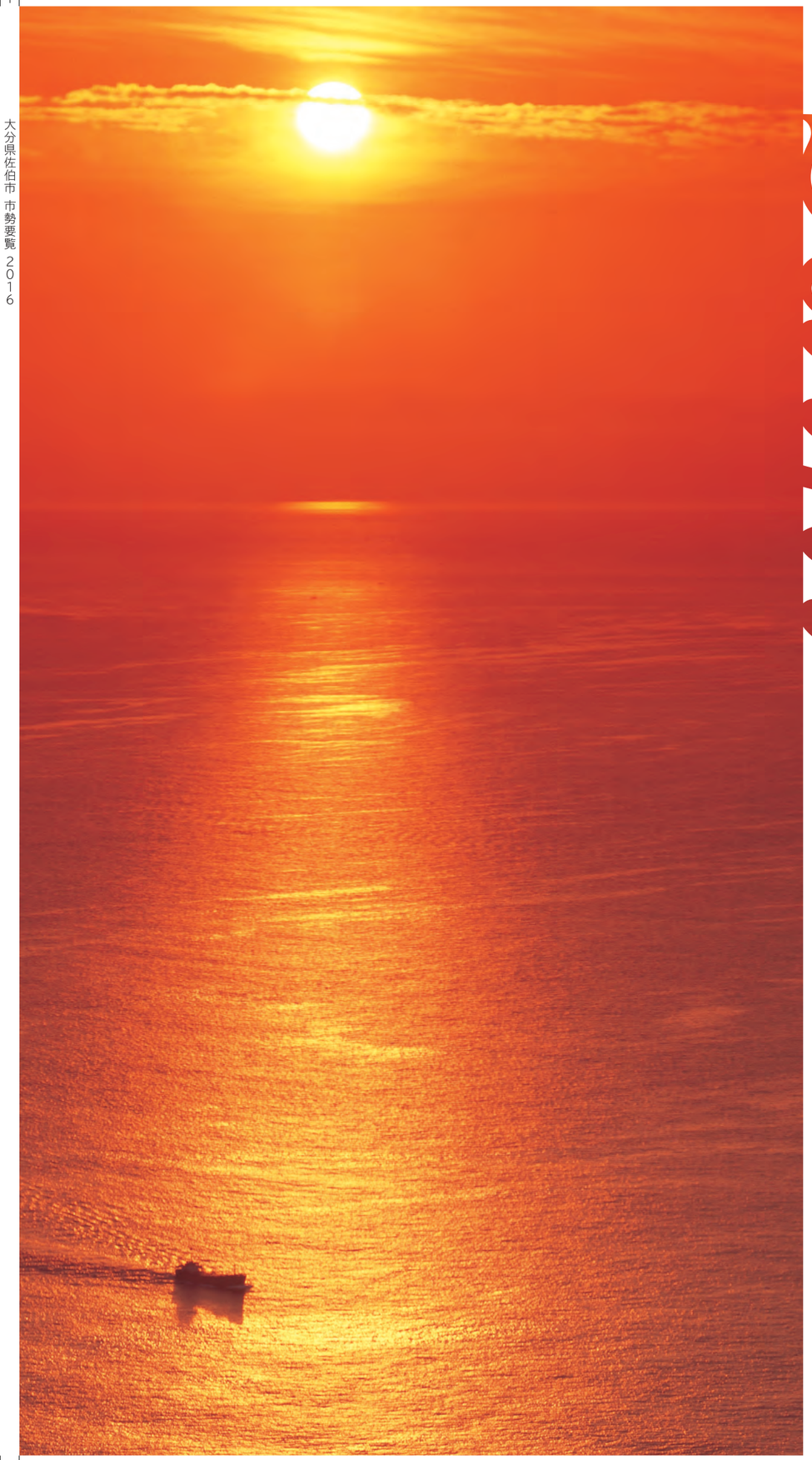
佐伯市

佐伯市役所本庁舎	〒876-8585	佐伯市中村南町1番1号	Tel 0972-22-3111（代表）
佐伯市上浦振興局	〒879-2692	佐伯市上浦大字津井浦1400番地3	Tel 0972-32-3111（代表）
佐伯市弥生振興局	〒876-0112	佐伯市弥生大字上小倉656番地1	Tel 0972-46-1111（代表）
佐伯市本匠振興局	〒876-0205	佐伯市本匠大字波寄2685番地	Tel 0972-56-5111（代表）
佐伯市宇目振興局	〒879-3205	佐伯市宇目大字千束1060番地1	Tel 0972-52-1111（代表）
佐伯市直川振興局	〒879-3101	佐伯市直川大字赤木105番地	Tel 0972-58-2111（代表）
佐伯市鶴見振興局	〒876-1202	佐伯市鶴見大字地松浦2008番地6	Tel 0972-33-1111（代表）
佐伯市米水津振興局	〒876-1401	佐伯市米水津大字浦代浦1239番地2	Tel 0972-35-6111（代表）
佐伯市蒲江振興局	〒876-2492	佐伯市蒲江大字蒲江浦3283番地	Tel 0972-42-1111（代表）

2016 佐伯市市勢要覧　発行／佐伯市役所　発行日／2016年3月　印刷／佐伯印刷株式会社

大分県佐伯市 市勢要覧 2016



Saiki

City in Brief

大分県佐伯市 市勢要覧 2016

みんなの誓い～市民憲章

わたしたちは、九州で一番広い佐伯の市民です。
この広大な地に、やさしさが満ちあふれる元気なまちをめざし、
ここに『みんなの誓い』を定めます。

一　山・川・海の豊かな自然に感謝し、こころ憩えるまちをつくります。

一　郷土の歴史と伝統を大切にし、文化薫るまちをつくります。

一　子どもを慈（いつく）しみ、高齢者を尊敬し、こころ通うまちをつくります。

一　こよなくスポーツを愛し、明るく健康なまちをつくります。

一　いきいきと働き、産業をおこし、活力みなぎるまちをつくります。

（平成20年6月25日制定）

佐伯市歌

「美しいのは～佐伯讃歌～」

作詞・作曲　伊勢正三

桜の花を浮かべて流る
川のほとり緑の風が吹く町
美しいのはここにあるもの
変わらないもの

潮の香りと朝日の中で
人はこんな綺麗な瞳になれる
美しいのはこの青い海
変わらない時

森の言葉を大切にして
夢ではなくホタルが舞い込む暮らし
美しいのは水の生命と
共にあるもの

昔海部の名残をのせて
沈む夕陽に映える城山の道
美しいのはここにあるもの
ゆるぎないもの　変わらないもの

（平成20年4月1日制定）

市章

佐伯市の頭文字「Ｓ」を図案化したもので、緑豊かな山々と清流、豊饒の豊後水道にあって、
市民が連携し、歴史や文化を大切にしながら未来へ向かっていくことを表しています。

Saiki

City in Brief 2016

大分県佐伯市市勢要覧

九州一の広大なやさしさ

CONTENTS

Saiki Scene
2 街
6 浦
10 里
14 味力
18 歴史

Saiki Style
さいきじまん
20 糀屋本店 9代目 浅利妙峰さん
21 佐伯セーリングクラブ会長 西山隆さん
22 青山女性百人会代表 本田房代さん

Saiki Sprit
豊かな暮らしに向けて
―基本計画―
24 水産業
26 農林業
28 商工業
30 さいきブランド
32 環境
34 防災
36 保健・医療・福祉
38 教育文化
40 スポーツ
42 まちづくり

44 つなぐ活気と伝統
46 集いふれあい

48 佐伯市MAP・アクセス
50 佐伯市10年のあゆみ
52 名誉市民
市民栄誉賞受賞者
市の花・木・鳥・魚
友好・姉妹・友情都市

Saiki Scene

日豊海岸国定公園・祖母傾国定公園と、二つの国定公園を持つ佐伯市は、海・山・川に恵まれたふるさと。その自然から生み出される産物と、脈々と受け継がれる歴史…。これからの未来へと引き継ぐべき宝の数々がここにあります。

街

かつて毛利2万石の城下町として栄えた佐伯市の中心部は、江戸時代の面影が色濃く残り、武家屋敷通りには往時の風情が今なお漂っています。佐伯城址を背景に、大手門跡から旧佐伯藩主毛利家の菩提寺である養賢寺までを巡る700mの道のりは「歴史と文学のみち」とされ、矢野龍渓生家跡や茶室汲心亭、城下町佐伯国木田独歩館などが建ち並んでいます。白壁と石畳が続く通りは、昭和61年「日本の道百選」に選ばれ、桜の名所としても人気の地。春になると淡いピンクが一斉に咲き誇り、青空と白壁とのコントラストが目にも鮮やかです。また、かつて船着き場であり商人の町として栄えた船頭町も歴史を持つまちで、昔と変わらぬ建物や老舗の商店が連なり情緒を運んでくれます。

The central part of Saiki City, which flourished as the castle town of the affluent and influential Mori clan, retains much of the atmosphere of the Edo period, and the streets lined with samurai residences still has the ambience of the days gone by. The 700-meter street from the site of Ote Gate to Yokenji Temple, the family temple of the former Saiki domain lord Saiki, is known as the 'Street of history and literature', and is lined with the site of the old Ryukei Yano residence, Kyushintei tea house, and the Doppo Kunikida Museum, against the backdrop of the site of Saiki Castle. The street with a series of white-washed walls and cobbled pavements was listed as one of the '100 best streets of Japan' in 1986, and is also popular as a place for viewing cherry blossoms. In the spring, pale pink blossoms bloom en masse, and exhibit a brilliant contrast against the blue sky and white walls. The old dock-side town of Sendo-machi, which prospered as a merchant town, is also a town with history, and the streets lined with old buildings and shops transports one back to the olden days.

佐伯市的市中心过去作为毛利2万石的城下町而非常繁华，目前仍然残留有浓厚的江户时代色彩，在武家宅地大道上仍然飘溢着往昔的风情。以佐伯城遗址为背景，围绕着从大手门遗迹到旧佐伯藩主毛利家的菩提寺——养贤寺，这700米长的道路被视为“历史与文学之道”，并排建有矢野龙溪生家遗迹与茶室汲心亭、城下町佐伯国木田独步馆等。白墙与石板一路延伸的大道在1986年被评为“日本之道百选”，作为赏樱的名胜也是相当有人气的地点。每当春天来临，淡淡的粉红色樱花一起绽开怒放，在蓝天与白墙的辉映下色彩鲜艳夺目。另外，过去作为船码头的商人街市而无比繁荣的船头町也拥有悠久的历史，与过去毫无二致的建筑物和老字号商店鳞次栉比，牵动着人们的思绪。

옛날 모리2 만 석의 성시로서 번창한 사이키시의 중심부에는 에도시대의 모습이 진하게 남아 있고, 무가 주택 거리에는 아직도 당시의 풍정이 느껴집니다. 사이키성 터를 배경으로 오테몬 터부터 구 사이키 번주 모리가의 조상을 모신 요켄지 절까지를 돌아보는 700m의 코스는 '역사와 문학의 길'로 알려져 있고, 야노 류케이 생가 터와 찻집 규신테이, 성시 사이키 구니키다 돗포관 등이 자리해 있습니다. 하얀 벽과 돌포장길이 이어지는 이 코스는 1986년 '일본의 길 100선'으로 선정되었고, 벚꽃 명소로도 인기가 많은 곳입니다. 봄이 되면 일제히 연분홍색 꽃을 피워 푸른 하늘과 하얀 벽과의 대비가 아름답습니다. 또 선착장이며 상인의 마을로 번창한 센도마치도 역사 깊은 마을로, 옛날과 변함없는 건물과 노포 상점들이 자리하여 옛 정서를 느끼게 해 줍니다.

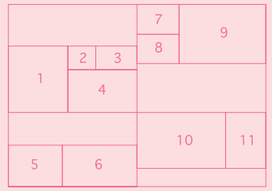
日本の道百選「歴史と文学のみち」(佐伯)

Saiki Scene 街

街の中心部に位置する城山山頂に立つと
佐伯市街から番匠川、豊後水道まで見晴らせ
一体となった街と自然を感じることができます。
目を閉じて思いを馳せるのは、佐伯藩の辿ってきた足跡。
苔むした石垣や白壁が
佐伯の長く深い歴史を物語っています。

そこかしこに風情を残す城下町を歩き
時代が紡いだ足跡を辿る。

1. 初代佐伯藩主 毛利高政により築かれ、美しい石垣が残る「城山・佐伯城跡」
2. 佐伯城で現存する唯一の遺構で県指定有形文化財「三の丸櫓門」
3. 毛利家の菩提寺。白壁に風格ある本堂が特徴的な「養賢寺」
4. 「お茶を汲むということはお客様に心を汲んで接待する」ということから命名された茶室「汲心亭（きゅうしんてい）」
5. 明治の文豪・国木田独歩が10か月間下宿した坂本永年邸を資料館にした「城下町佐伯国木田独歩（くにきだどっぽ）館」
6. 穏やかな時の流れを刻むように流れる番匠川の景色
7. 佐伯市の中世から近代初頭までの歴史をテーマごとに案内する「佐伯市歴史資料館」
8. 昭和11年頃建築の旧旅館を利用した観光情報発信拠点「佐伯市城下町観光交流館」
9. 九州屈指の清流 番匠川
10. 茜色に染まる、夕暮れ時の市街地の眺め
11. 「歴史と文学のみち」に咲く梅の花



Saiki Scene 浦

大小さまざまな島々や半島、湾。日豊海岸国定公園を形成し、変化に富む景色を織り成すリアス式の海岸線は、見る人が思わず息を呑む美しさが漂います。瀬戸内海からの海流と南から流れ込む黒潮がぶつかりあう豊後水道は、四季を通じて多様な魚が水揚げされる全国有数の好漁場。また優れた養殖技術を活かしたブリやヒラメ、干物や加工品の生産など、海の恵みは漁業とともに、人々の生活を豊かにしてきました。
生活に豊かな恵みをもたらす佐伯の海ですが、戦時中は真珠湾攻撃の演習地の一つとなった歴史も持っています。戦後には臨海部に工場地帯が形成され、高度経済成長期には工業のまちとして栄えました。佐伯の海は常に偉大なる存在として、様々な面から佐伯のまちと人を包み込んできました。

Peninsulas, bays and islands of various sizes. The deeply indented coastline that provides a richly varied landscape, which forms the Nippō Kaigan Quasi-National Park, is a breath-taking beauty. The Bungo Channel, where the current from the Seto Inland Sea and the Black Stream that flows in from the south collide, is one of the best fishing grounds in the nation, where a variety of fish is caught throughout the four seasons. The abundance of the sea and fishery have enriched the lives of the people, as seafood is processed, and yellowtails and flounders are farmed utilising excellent farming technologies.
The sea of Saiki has brought much abundance to the lives of the people, but during World War II, it was one of the practice grounds for the Battle of Pearl Harbour. After the war, a factory quarter was created in the coastal area, and during the period of rapid economic growth, the town prospered as an industrial town. The sea of Saiki has always protected the town of Saiki and its people from various aspects as a great presence.

大小不一形色色的岛屿、半岛和港湾，形成了日丰海岸国定公园，交景色织、变化多端的沉降式海岸线，飘逸着摄人心魄的美丽。来自濑户内海的海流与从南边流入的黑潮在这里互相碰撞而形成的丰后水道，还是一年四季可以捕获多种鱼类的、全国屈指可数的好渔场。另外，运用出色的养殖技术而生产的鳟鱼和比目鱼、干货和加工品等来自大海的恩惠与渔业一起造就了这里的人们富饶的生活。
佐伯的海洋给人们带来了富饶的生活，还拥有曾在战时作为袭击珍珠港演习地之一的历史。在战后，临海地区形成了工业地带，在经济高速发展时期，佐伯作为工业城市而得以繁盛。佐伯的海洋永远都在体现其伟大的存在，从各个方面包容着佐伯这座小城与生活在这里的人们。

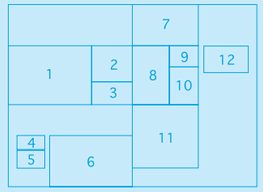
크고 작은 다양한 섬과 반도, 만. 닛포 해안 국정공원을 형성하며 변화무쌍한 경치를 자아내는 리아스식 해안선은 너무나 아름다워 보는 이들의 숨이 멎을 것만 같습니다. 세토나이카이 쪽에서 흘러오는 해류와 남쪽에서 흘러오는 구로시오가 만나는 분고 수로는 사계절 내내 다양한 물고기가 잡히는 일본에서 손꼽히는 황금 어장입니다. 또 뛰어난 양식 기술을 이용한 방어와 넙치, 건어물과 가공품 생산 등 수산품은 어업과 함께 사람들의 생활을 풍요롭게 해 왔습니다.
사이키의 바다는 생활을 윤택하게 해 주지만, 태평양전쟁 중에는 진주만 공격을 위한 연습 장소 중 하나였던 역사도 간직하고 있습니다. 전쟁이 끝난 후에는 임해부에 공장지대가 형성되어 고도 경제 성장기에는 공업도시로서 번창했습니다. 사이키의 바다는 항상 위대한 존재로서 다양한 면에서 사이키의 도시와 사람을 품고 왔습니다.

空の公園から豊後水道を望む（米水津）

Saiki Scene 浦

ここは、九州で一番早く太陽が昇るまち。
どこよりも早い朝が、
海を、まちを、ひとを照らす。

九州最東端に位置する佐伯市は、九州で一番早く朝を迎えます。
日の出とともに紅く染まる空と海は得も言われぬ美しさ。
雄大で神秘的な力をもつ佐伯の海は
いつでもまちとひとを、大らかにやさしく見守っています。



1. 初日の出スポットとして、毎年多くの人々が訪れる「豊後二見ヶ浦」（上浦）
2. 太平洋戦争中、豊予要塞の重要施設であった「丹賀砲台」跡（鶴見）
3. ハマユウ群落として「おおいた遺産」に認定されている「間越海岸」（米水津）
4. 直売所や休憩施設を備えた「かまえインターパーク」（蒲江）
5. 日本でサンゴが見られる北限の地「深島」（蒲江）
6. 日本の渚百選に選定されている「元猿海岸」（蒲江）
7. 潮の流れが激しい「元の間海峡」（鶴見）
8. 満天の星が降りそそぐ夜の「空の公園」（米水津）
9. 港町のイカを干すのどかな景色（鶴見）
10. 米水津と蒲江を結ぶ豊後くろしおラインの峠、空の公園からの景色（米水津）
11. 豊後水道を行き交う船の航海を見守る「鶴御埼灯台」（鶴見）
12. 海岸からわずか500m足らずに位置する「暁嵐（ぎょうらん）の滝」（上浦）

Saiki Scene 里

巨大な花崗岩の一枚岩を桑原川が
長い年月をかけて刻んだ奇観。
「藤河内渓谷のひょうたん淵」（宇目）

佐伯市の山間部は、九州山地の主峰や壮大な鋭峰が続く祖母傾国定公園に位置し、照葉樹の原生林で覆われています。公園に抱かれる景勝地のひとつが藤河内（ふじがわち）渓谷。長年かけて育まれてきた一枚岩の甌穴（おうけつ）群が連なり、透明度の高い川が流れる圧倒的な渓谷美が、五感を刺激します。広大な森林を持つ佐伯では昔から林業も栄えており、藩政時代から木材の育成が勧められ、多くの木材を活かした木造船の製造も行われてきました。手つかずの自然が残る山々は昼夜の寒暖の差があるため、山の幸や清流に育つ鮎といった農水産物も豊富です。また西日本有数のホタルの生息地でもあり、季節になると100万匹以上のホタルが乱舞する幻想的な光景が見られます。

The mountains of Saiki City form part of the Sobo-Katamuki Quasi-National Park, with the main peak of the Kyushu mountain range and a series of majestic and sharp crests, and they are covered with virgin forests of evergreen broadleaf trees. Fujigawachi Gorge is one of the scenic sites within the park. There are giant's cauldrons that have been carve out of a sheet of rock over centuries, and the spectacular beauty of the gorge with a crystal clear river running through it stimulates the five senses.
Forestry has flourished since the olden days in Saiki which has many vast forests, and since cultivation of timber has been promoted since the days of domain administration, the building of wooden ships made of a variety of timber has also been carried out. Since the temperature difference between night and day is significant in the intact mountains, the mountains produce an abundance of food and fish such as sweetfish that grow in the pristine rivers. The gorge is also one of the foremost habitats of fireflies in West Japan, and during the peak season, one can see over a million fireflies creating fantastical scenery.

佐伯市的山区位于九州山地的主峰与壮观的尖峰相连的祖母倾国定公园，被常绿阔叶树的原始森林覆盖。被公园环抱的一道风景名胜地就是藤河内溪谷。多年培育出来的磐石壶穴群紧紧相连，潺潺流动的清澈河流所造就的令人倾倒的美丽溪谷刺激着人们的感官。
佐伯拥有广袤的森林，从古代开始林业就很发达，从藩政时代开始，人们就建议种植木材，充分运用众多的木材，从事木船的建造事业。残留有未经雕琢的大自然的群山存在昼夜温差，因此山珍之类的农产品与清流养育的香鱼等水产品的出产丰富多彩。另外，这里还是西日本屈指可数的萤火虫栖息地，每当季节来临时，人们可以看到100万只以上的萤火虫狂舞的梦幻般景象。

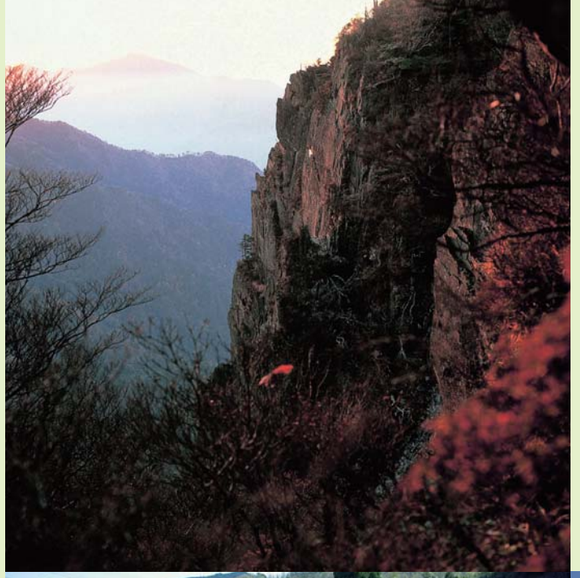
사이키시의 산간부는 규슈 산지의 주봉과 장대한 예봉이 이어지는 소보카타무키 국정공원에 위치하고 원생 조엽수림으로 덮여 있습니다. 공원으로 둘러싸인 경승지의 하나가 후지가와치 계곡. 오랜 세월에 걸쳐 형성되어 온 통바위 구혈군이 이어지고, 투명한 강물이 흐르는 압도적인 계곡의 아름다움이 오감을 자극합니다.
광대한 삼림을 보유한 사이키에서는 옛날부터 임업도 번창했고, 번정시대부터 목재 육성이 권장되어 많은 목재를 이용한 목선 제조도 활발했습니다. 사람의 손이 닿지 않은 자연 그대로의 산들은 밤낮의 기온 차가 커서 산채나 맑은 물에서 자라는 은어와 같은 농수산물도 풍부합니다. 또 서일본에서 손꼽히는 반딧불이 서식지이기도 하여, 계절이 되면 100만 마리가 넘는 반딧불이가 어지럽게 춤을 추는 환상적인 광경을 볼 수 있습니다.

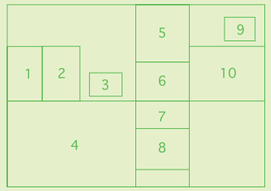
番匠川上流域各地で見られるホタルの乱舞（本匠）

Saiki Scene 里

四季折々の自然が残る山里には、どこか懐かしい空気がよく似合う。

澄んだ空気に満ちた山々や
季節の野菜が実る畑、
清流で遊ぶ子どもたち。
深い自然にあふれる佐伯の里は
「ただいま」と帰って来たくなる温かな場所。
人々の笑顔や絆も、かけがえのない宝物です。





1. バンガローや炊事用具などの設備も充実「直川憩の森公園キャンプ場」(直川)
2. 山あいに広がる美しい茶畑(本匠)
3. 鎌倉時代に彫られたといわれる磨崖石塔群「小倉磨崖石塔」(弥生・県指定史跡)
4. 木造では日本一の大きさ「小半(おながら)森林公園キャンプ場・本匠の大水車」(本匠)
5. 大分県と宮崎県の県境にあり、日本三百名山及び大分百山に選ばれている「傾山」(宇目)
6. 色鮮やかな柳瀬チューリップ畑(宇目)
7. 実り豊かで懐かしいふるさとの姿が映える秋の景色(直川)
8. 標高645m、初日の出の名所として知られる「尺間山(しゃくまさん)」(弥生)
9. 収穫後の田んぼに飾られたかかし(本匠)
10. 大分県と宮崎県の県境に近く、北川ダムのダム湖に架かる「唄げんか大橋」(宇目)

Saiki Scene 味力 みりょく

佐伯の豊饒の海を支えるのは、清流・番匠川と九州中央部に向かって広がる深い山々。地域を代表する山海の幸は栄養豊富な海が源となっており、かつて「佐伯の殿様、浦でもつ」といわれていたほどです。
豊後水道の恵みで育つ魚は四季折々に多様で、魚介類は鮮度が秀逸。職人の技が光る佐伯寿司や、旬の魚を豪快に盛った海鮮丼や伊勢えび料理をはじめ、新鮮な素材を活かした料理が舌を楽しませてくれます。また佐伯ごまだしやあつめし、漁師直送の魚介類が特価で販売される朝市など、港町ならではの食文化もこのまちに根付いています。山海の特色が集結した道の駅、寿司屋や居酒屋が並ぶ「うまいもん通り」など、市内の至るところでたくさんの美味に出会うことができます。

地元の新鮮なネタを使った名物「佐伯寿司」

The abundance of Saiki's sea is supported by the pristine River Banjo and the deep mountains that spread toward the central area of Kyushu. The source of the fruits of the mountains and the sea of the region is the sea rich in nutrients, and it was such that people used to say 'The lord of Saiki is nothing without the sea'.
The fishes that grow in the Bungo Channel vary throughout the four seasons and they are exceptionally fresh. Dishes prepared with fresh ingredients, including Saiki sushi, through which the skill of the chef shines through, seafood bowl topped with a generous amount of seasonal seafood, and spiny lobster dishes, delight the palate. A food culture unique to a port town is firmly embedded in this town, as evidenced by the morning markets where Saiki gomadashi, atsumeshi and seafood that comes straight from the fishermen are sold. One can encounter many delicious flavours all over the city, including the roadside stations where the abundance of the mountains and the sea are brought together, and the 'Umaimon Street' lined with sushi restaurants and taverns.

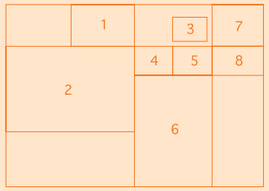
造就了佐伯丰饶之海的是清流与番匠川、以及向九州中央地区延伸开的苍茫群山。本地区代表性的山珍海味之源就是这片营养丰富之海，从前有句俗话说“佐伯的老爷就是靠这海湾养活的”。
靠丰后水道的恩惠而培育出的鱼类多种多样、四季不同，海鲜类的新鲜度超群。佐伯寿司闪耀着厨师匠人的精湛技艺，以份量十足的时令鱼类海鲜盖饭和伊势龙虾料理为首，运用了新鲜食材的料理让人大快朵颐。另外，佐伯芝麻高汤、温饭、以及特价销售渔民直接送达的海鲜的早市等等，这些只有海滨城市才特有的饮食文化也在这座小城扎根发芽。汇聚了山珍海味特色的道之驿、寿司屋与居酒屋鳞次栉比的“美食街”等，可以让您在市内随处邂逅大量美味。

사이키의 풍요로운 바다를 지탱하는 것은 물이 깨끗한 반조가와 강과 규슈 중앙부를 향해 펼쳐지는 깊은 산들입니다. 지역을 대표하는 임산물과 해산물은 영양이 풍부한 바다가 그 원천이어서, 옛날 '사이키의 재정은 바다에 달려 있다'고 할 정도였습니다.
분고 수로에서 자라는 생선은 계절마다 다양하고, 어패류는 선도가 일품. 장인의 기술이 빛나는 사이키 초밥, 제철 생선을 듬뿍 얹은 해물 덮밥, 왕새우 요리를 비롯한 신선한 재료를 사용한 요리들은 입을 즐겁게 해 줍니다. 또 사이키 고마다시와 아쓰메시, 어부 직송 어패류가 특가로 판매되는 아침시장 등, 항구도시 고유의 식문화도 이 도시에 정착되어 있습니다. 산과 바다의 특색이 응집된 휴게소, 초밥집과 주점이 늘어선 '우마이몬도리' 등, 시내 곳곳에서 많은 음식들을 만날 수 있습니다.

Saiki Scene 味力（みりょく）

佐伯の食を語るうえで外せないのが
広大な海、山、川の存在。
風土を愛する佐伯の人々が
とれたての恵みを大切に料理し、
大切な人へと振る舞ってきました。
滋味深い味と愛情が込められています。

肥沃な土地と豊饒の海。
それらを慈しむ人々の思いが、
唯一無二の味わいを作り出す。



1. 熱々のご飯とブリで作る漁師料理で、農林水産省選定
農山漁村の郷土料理百選「ブリのあつめし」
2. 日豊海岸の荒磯で育ち、
豪快でコシのある歯ごたえが特徴的な「伊勢えび」
3. しいたけと甘酢漬けにした薄切り大根で飾る
“山”の寿司「雪ん子寿し」
4. 肉質の良さが全国的にも評判「猪（しし）料理」
5. アジをまるごと使った大胆な郷土料理「まる寿司」
6. 豊後水道の活魚を贅沢に盛り付けた「海鮮丼」
7. ほぐした地元産の焼魚にたっぷりのすりゴマを加え、
醤油やみりんで味付けした調味料で食べる「佐伯ごまだしうどん」
8. 良質なプランクトンで育つ、
ふっくらとした身がたまらない「岩牡蠣」

佐伯市の歩み

Saiki Scene 歴史

佐伯氏が大友氏とともに乗り越えた激動の時代、毛利氏が築いた佐伯城や城下町と、長い歴史が紡がれ、今の佐伯がつくられました。佐伯の礎を築いた歴史を時代ごとに振り返り、郷土が誇る偉人をクローズアップします。

原始・古代
太古の昔から始まった佐伯の歴史

佐伯にいつの時代から人々が住んでいたかは定かではありませんが、森の木遺跡の調査によると今から約9,000年前の縄文時代早期には人々が定住していたことが分かっています。縄文の集落に住む人々は竪穴住居に住み、肉や魚などを蒸し焼きにして食べ、保存のため燻製にしていました。3世紀ごろ大和王権が誕生し、各地に巨大な古墳が造られるようになります。佐伯でも海や川を見下ろす丘陵に、宝剣山古墳や樫野古墳などが築かれました。8世紀には現在の奈良や京都に都が置かれ、地方には国・郡・里(郷)が置かれました。『豊後国風土記』によると、佐伯は海部郡の「穂門郷」に属し、「佐伯院」という古代の役所があったのではないかともいわれています。

樫野古墳の箱形石棺

中世
後世まで伝わる栂牟礼合戦

中世の佐伯には佐伯荘と呼ばれる荘園があり、豊後の守護大友氏のもと、地頭として佐伯氏が支配していました。戦国時代に佐伯氏が築いた栂牟礼城は、巨大城郭として知られ、この城を舞台とした栂牟礼合戦は伝説として今に伝えられています。佐伯氏は大友氏の重臣として活躍しますが、文禄2年(1593年)の大友氏改易に伴い、伊予の藤堂氏に仕えて佐伯の地を去りました。市内には佐伯氏にまつわる史跡や寺社、石造物などが残されており、往時の様子を今に伝えています。

栂牟礼山を望む

十三重塔

近世
佐伯の城下町を築いた毛利氏

近世の佐伯市域は、佐伯藩と岡藩(宇目)に分かれており、佐伯藩の領域は現在の津久見市南部から宇目を除く佐伯市全域でした。初代藩主毛利高政は豊臣秀吉に仕え、日田・玖珠を治めていましたが、関ヶ原の戦い後に佐伯に国替えとなりました。高政は番匠川河口に佐伯城と城下町を築き、豊後水道に面する浦方と平地の少ない山間部の農村を藩政の基盤としました。以後江戸時代の約270年間、12代にわたって毛利氏の時代が続きました。2万石でありながら実質石高は5万石近くともいわれ、「佐伯の殿様、浦でもつ」といわれるほど、藩の財政は海の恵みに支えられていました。第8代藩主毛利高標は学問好きとして知られ、藩校「四教堂」や「佐伯文庫」を開設。「佐伯文庫」は質・量ともに加賀藩や水戸藩にも劣らないものでした。

一方、大野郡に属する宇目郷は岡藩領地となり、交通の要衝として重視され、鉱山開発などが行われました。藩主中川氏は、初代秀成から12代にわたって岡藩を統治しました。

中島子玉作『愛琴堂全集』

中島子玉

佐伯藩士の家に生まれ、日田の広瀬淡窓に学んだ。淡窓は子玉の才能を高く評価し、淡窓を訪ねた頼山陽(らいさんよう)は、「自然は耶馬溪(やばけい)、人材は中島子玉」と賞賛した。佐伯に戻ると、四経堂の教授として師弟の教育に当たった。

毛利高政所用の兜
(毛利家蔵)

毛利高政

慶長6年(1601年)、日田地方を領地としていた毛利高政が豊後海部郡(現在の佐伯市周辺)2万石に転封。慶長11年(1606年)には、番匠川河口の八幡山に新たに佐伯城を築城し、以後、毛利氏12代の居城となった。また高政公は特別に山焼きを制限するお触書を出し「魚つき林(※)」の政策で山を守り、海を育ててきたため、その尽力により、現在も大分県一の豊富な海産物の水揚げ量を誇っている。

※海面に森林の影が映ることなどにより、魚が集まる効果。現在の「魚つき保安林」の先がけ

矢野龍渓

佐伯藩士の家に生まれ、四教堂を経て、慶應義塾で学んだ。福澤諭吉や大隈重信の信頼を得て、政治家、新聞社のジャーナリスト、さらにはベストセラー作家という立場から、一貫して立憲政治の確立に尽力した。政治小説『経国美談』は明治のベストセラーとなった。

近代
戦争の過去を未来へつなぐ

明治4年(1871年)の廃藩置県により佐伯藩は佐伯県となり、その後他県との併合により大分県ができました。この頃の佐伯は15の区に区分され、現在の区割りの基礎ができました。明治10年(1877年)の西南戦争では、宮崎県境の山間部が広範囲に戦場となり、その後の日清・日露戦争でも多くの戦没者を出しました。昭和に入ると、佐伯は軍事都市として発展します。昭和9年(1934年)に佐伯海軍航空隊が、昭和15年(1940年)には佐伯防備隊ができ、真珠湾攻撃の際には佐伯湾から連合艦隊機動部隊の一部が発進しました。しかし戦局が悪化すると、軍都ゆえにたびたび空襲を受け一般市民も犠牲となりました。このような歴史をふまえ、佐伯市は非核・平和都市宣言を行い、海軍航空隊跡地には平和祈念館が建てられています。

西南戦争の戦没者が眠る岡の谷招魂所

掩体壕(えんたいごう)
〈航空機を敵の攻撃から守るための格納庫〉

佐伯市平和祈念館 やわらぎ

現代
さらなる地域の発展へ向けて

戦後は旧海軍跡地などの臨海部に合板や造船、セメントといった基幹産業や造船所が進出し、県下でいち早く工業都市として発展しましたが、昭和48年(1973年)のオイルショックの影響で経済は低迷していきます。しかしメカトロニクスや業務用冷蔵庫、医療機器などの製造分野で、全国的に高いシェアをもつ企業が増え、市の経済を支えています。平成17年(2005年)3月、市町村合併により新佐伯市が誕生し、新たなまちづくりがスタートしました。これまでに主要な施設の整備が進んだことに加え、平成27年(2015年)には待望久しかった東九州自動車道が開通。主要都市との移動時間の短縮や交流、産業や経済の活性化に期待が高まっています。

市街地を望む

Saiki Style

さいきじまん

生まれ持った熱い志は、ふるさとが授けてくれたもの。
ここに暮らし、それぞれの道で生きる人々が抱く想いは皆同じ。
かけがえのないふるさとへの愛情であふれている。

佐伯の歴史と風土が育んできた糀の力を日本や世界へ伝える日々です。

糀屋本店9代目

浅利妙峰さん

快活な振る舞いとあふれるパワーで、糀の魅力を日本や海外へ伝えている浅利さん。元禄2年（1689年）から320余年続く老舗「糀屋本店」で“こうじ屋ウーマン”と自らを称し、精力的に活動しています。

もともと浅利家のルーツは四国にあり、毛利氏の庇護で佐伯との縁ができたといいます。豊後佐伯藩の船頭衆の頭として毛利公に仕えていた吉左衛門信義が、当時四国で醸造業が栄えていたことから、糀造りを始めたのが、糀屋本店の佐伯でのはじまりです。その時佐伯には数軒の糀屋があり、酢や醤油、味噌は家庭で作るのが当たり前。しかし時代は変わり、ちまたには添加物や保存料を使った調味料が出回るようになりました。そんな中、自身の子育ての経験もふまえ、レシピ考案や講演会を通じて発酵食品のもととなる糀の力を提唱。「時代に合わせた使い方を」と手早くできる料理の提案に力を入れています。

8代目の長女として生まれた浅利さんは、幼い頃から職人と家族のように接し、糀のできを肌で感じて覚えていきました。甘酒は高血圧予防、味噌は長寿の効能など、書物を通じて研究を重ねるのも常。この背景にあるのは、第8代佐伯藩主・毛利高標公の「とっさの機転は学問にあり」という教え。そこに「己を深め、他を利する熱き心を読書で磨け」と言葉を加え、経験や書を通じて身につけた知識を大切にしています。また佐伯の魅力は人にもあるといい「毛利氏の時代が長かったことや海の交易が盛んだった地勢もあり、穏やかで気さくな気質です」と笑顔。これからも、佐伯の風土と長き歴史、そしておおらかな人が紡いできた糀の文化を、より多くの人へと語り継いでいきます。

海外でも糀に関する講演会やレシピの公開、レストランのオーナーと協力して料理を作ってもらうなどのPR活動をする浅利さん。

穏やかで美しい佐伯の海を多くの人へ広げていきたい。

佐伯セーリングクラブ会長 **西山隆**さん

日に焼けた肌とマリンルックの装い。太陽を浴びてキラキラと輝く佐伯の海がよく似合う西山さんは、海をこよなく愛する少年のような心を持つ男性です。「佐伯の海は、きれいで波が穏やか。ヨットやマリンスポーツに最適なので、安全に楽しめる海の遊びを多くの人に伝えたい」と頬を緩ませます。そんな思いから「佐伯セーリングクラブ」を立ち上げたのは、26歳の時。現在に至るまで40年間会長を務め続け、子どもから大人まで幅広い世代に海の魅力を伝えてきました。

西山さんが主にヨットを浮かべるのは、西上浦の風無（かざなし）漁港。山々に囲まれ、その名のとおり風の影響が少なく、内海で深さもありヨットに適した環境が整っているためです。現在セーリングクラブの会員は20名以上。海が夕陽に紅く染まる様子を目の前にするサンセットクルーズや、時には仲間とワインパーティーを開くなど、さまざまな形でヨットの魅力を伝えながら、ご自身も海との暮らしを楽しんでいます。また佐伯海洋少年団の指導部長も兼任しており、子どもたちへロープの結び方や手旗信号、ボートの漕ぎ方といった幅広い海のイロハを教育。「海の上では自然を相手にするので、危機管理が大切。自分の命に関する想像力をはたらかせることは、生きるうえで欠かせないことです」と子どもたちの“生きる力”を育んでいます。

ほかにも魚市場でのイベントや進水式の企画、地域全体で防災意識を高める試みなど、西山さんの海や自然に関する活動は尽きることはありません。どこまでも広がる佐伯の海のように、西山さんの多岐にわたる活動はまだまだ続いていきます。

風にはためく帆が青空に映える、ヨットの回遊風景。佐伯海洋少年団の活動では、子どもたちの輝く笑顔を見るのも楽しみのひとつ。

人も自然も豊かな最高の場所で地域の輪を紡いでいます。

青山女性百人会代表 本田房代さん

暖簾の奥から楽しそうな笑い声が響き渡る「青山ピンコロ軒」は、“ピンピン元気でコロコロ笑って過ごそう”という思いから名付けられた店。地域の高齢者のコミュニケーションの場として平成20年、佐伯市の茶の間事業の一環でつくられた場所です。本田さんは、この「青山ピンコロ軒」を切り盛りする青山女性百人会の代表。生まれも育ちも佐伯市青山地区で、「空気が澄み、住んでいる人も素晴らしい。野菜もおいしくて最高の場所です」と青山地区への愛情を胸に地域を盛り上げます。

店内では漬け物や菓子類などを販売しており、なかでも地元で採れる“さるかけ”の葉と、青山地区の米粉を使って手作りする昔ながらの饅頭は自慢の味。山に葉を摘みに行き、餡もすべて手作りするなど、女性たちが手間ひまかけて作っています。「お饅頭とお茶を味わいながら、みんな世間話を楽しんでいます。働く人も、ここに来ると元気になると言ってくれますね」と笑う本田さん。働く仲間と冗談を言い合い、訪れる人々にも元気のよい挨拶や会話を絶やさず、太陽のような存在でみんなを明るく照らします。

青山地区の横のつながりの基盤となっている「青山ピンコロ軒」ですが、今後は「縦のつながりも広げられる場所に」と考えている本田さん。これまで働いていた60～80代に加えて30代という若いパワーも仲間として迎え、一人暮らしのお年寄りへの食事の宅配事業など、さらに活動の枠を広げています。また忙しい合間を縫って、どろんこバレーの主催や女性消防団での活動など、地域のための取り組みにも挑戦。持ち前の明るさとパワフルさ、そして笑顔で青山地区を元気にしています。

「青山ピンコロ軒」は、月・水・金曜日の10時～15時までの営業。防災訓練を目的とした炊き出しの練習なども行っています。

Saiki Spirit

豊かな暮らしに向けて－基本計画－

水産業 P24

農林業 P26

商工業 P28

さいきブランド P30

環境 P32

防災 P34

保健・医療・福祉 P36

教育文化 P38

スポーツ P40

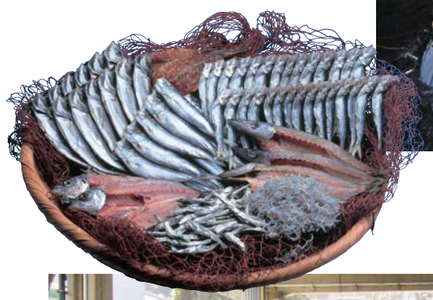
まちづくり P42

「佐伯の殿様、浦でもつ」
県内随一の好漁場から揚がるのは
新鮮で多様な旬の魚

「かぼすブリ」は、大分県の特産であるカボスを飼料に混ぜて育てる。さっぱりと香りもよく、血合いが鮮やかなことが特長。「かぼすヒラメ」も同じように養殖され、市場での評価も高い。

九州一の広大なやさしさ
佐伯市 Saiki Spirit

水産業



日豊海岸国定公園に指定されているリアス式の海岸線は、風光明媚な景色が広がる日本でも指折りの美しい海です。豊後水道は瀬戸内海からの潮と黒潮の急流がぶつかりあう絶好の漁場で、佐伯市の水産業の生産量は約4万1,000トン(平成25年)と県内トップを誇ります。アジやサバ、イワシ、マダイ、イサキ、マグロなど、水揚げされる種類の多さが海の豊かさを物語っています。天然の好漁場であるだけでなくブリやカンパチ、ヒラメなどの養殖業も盛んで、中でも平成22年から新たな取り組みとして力を注いできたのが、「かぼすブリ」と「かぼすヒラメ」です。大分特産のカボスを餌に加えて育てることで、より鮮度が長く保たれ、食味の良さとさっぱりした後味が好評で、大分を代表する新たなブランド魚として定着しつつあります。

佐伯市ではこれら佐伯産水産物のPRと消費拡大のため各種イベントを開催し、また東九州自動車道の開通を追い風に新たな流通ルートによる販路拡大に力を入れています。

いきいきさいき佐伯んし人

蒲江漁業青年部
連絡協議会 会長
戸高達文さん

蒲江漁業青年部では、地元の中学校で魚の捌き方教室、市外のイベントで緋扇貝の販売といった魚食普及活動を推進しています。また温暖化の影響による磯焼けを防ぐ活動にも取り組んでおり、父親が会長を務める「名護屋豊かな海づくりの会」に所属。実際に海へ潜って藻場を増やし、地元の小学校へ足を運んで藻場に関する勉強会をしています。子どもたちに藻場保全への関心を抱いてもらうため、スポアバッグに絵を描き、海藻を取り付けて海に投げ込む体験会も開いています。天然資源の減少により、潜水漁業は厳しい状況ですが、藻場保全活動に積極的に取り組むことで、豊かな海を守り、漁業の将来を担う後継者を育てていきたいです。

自然の恵み たゆまぬ愛情の賜が 人々を満たす

宇目地域は、椎茸の人工栽培技術発祥の地。毎年開催される全国乾椎茸品評会では、常に宇目の生産者が上位入賞を果たす。その中でも特に日本一とされる農林水産大臣賞も数回受賞。

ほおずきの生産額全国一の大分県で、佐伯市は3割を超す出荷量を誇る。主に盆地で寒暖の差が大きい宇目地域で栽培が盛ん。

温州みかんやポンカン、デコポンなどの柑橘類を多く栽培

蒲江地域では、台風シーズンを避けるためにお盆前に稲刈りを終える超早期米を生産。

大分県のスイートピーは栽培面積・生産量ともに全国2位。佐伯市では宇目地域で盛んに生産。

古くから、番匠川の清流と川霧が育む因尾（いんび）茶。独特の香りを持つ。

九州一の広大なやさしさ 佐伯市 Saiki Spirit

農林業

盆地で寒暖の差が大きい宇目地域では、昔からほおずきの栽培が盛んに行われてきました。生産量は大分県の中でも有数で、出荷最盛期の7～8月になると、ハウス内には色鮮やかなオレンジ色の実が揺れます。

温暖な気候を利用し、蒲江波当津地区では台風被害を防ぐため、収穫時期が県内トップの超早期米栽培も推進しています。このほか、それぞれの地域の特性を活かしてナスやニラなどの野菜、ミカンやポンカンなどの果樹のほか、畜産業や茶の栽培も盛んに行われています。

また、市の面積の9割近くが森林であることから林業も盛んです。豊かに育まれた森林の約半分は人工林で、その約7割をスギが占め、良質な木材を生産しています。クヌギやナラを原木とした椎茸の栽培にも力を入れており、全国乾（ほし）椎茸品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど、高品質な椎茸を栽培しています。

佐伯広域森林組合本所及び宇目木材加工場

県内一の森林面積を誇る

いきいきさいき佐伯ん人し

椎茸生産者
岡田重徳さん

昼夜の寒暖の差がある宇目の気候を活かし、父の代から約40年間原木栽培の椎茸栽培を行ってきました。私の代になり農林水産大臣賞を5回も受賞しましたが、受賞のきっかけとなったのはビニールハウスをつくったこと。散水施設で一定の環境を保ちながら栽培ができるため、雨風に左右されずに管理をすることができるのです。また、品質のもととなるほだ木作りにも手を抜くことはありません。いいほだ木に育てるため2年間、草を刈るなど風通しを良くして最適な環境をつくることが大切です。椎茸は肉厚で、出荷する商品はすべて乾椎茸のため風味豊か。その美味しさをより多くの方へ届けようと、佐伯市のイベントに参加してPRに努めています。

水深14mの岸壁を持つ佐伯港。5万トン級の大型船舶の入港が可能となり、地場産業の競争力の強化と、新たな臨海型産業の立地が期待されている。

佐伯の技術力をより広い世界へ羽ばたかせる

産業用ロボット部品の製造工場

医療機器の製造工場

業務用冷蔵庫の製造工場

新人社員等が技術を学ぶ「造船技術センター」

九州一の広大なやさしさ 佐伯市 Saiki Spirit

商工業

佐伯市では豊かな自然を背景に戦前はセメント、戦後は造船、パルプ、合板などの臨海型の工業群を形成してきました。近年は臨海部で造船、水産加工業が発展する一方で、内陸部でも業務用冷蔵庫、医療機器の製造分野で全国的に高いシェアをもつ企業も立地しており、平成24年には製造品出荷額が初めて1,000億円を突破しました。今後も官民挙げて平成27年3月に開通した東九州自動車道や佐伯港新岸壁との相乗効果による企業誘致と地域企業の振興発展に努めます。

佐伯IC周辺を始めとする郊外には大型店舗や医療機関が相次いで出店し、新たなにぎわいが形成されていますが、その一方で空洞化が進む中心部の商店街の活性化にも取り組んでおり、さらに過疎化・高齢化が進む農山漁村地域の事情に即した「宅配事業」の取り組みも進めています。

遠隔地の暮らしをサポートする宅配事業の取り組み

公共交通機関の廃止や、車が運転できないことなどにより移動手段がない世帯のために、商工会が中心となって日用品や食料品などを宅配している。

清らかな海・山・川が
佐伯にしかない宝を生み出す

古来より味の良さで全国的に有名な佐伯ちりめん

昼夜の温度差が育む甘さが際立つ「宇目ぶどう」

ゆで卵を色つきのすり身に包み、
蒸して揚げた郷土料理「くじゃく」

茶葉を平釜で炒る
釜茶製法の因尾茶

米水津地域は大分県のブリ養殖発祥の地。恵まれた環境で飼育している米水津産ブリは、
「まる米ブリ」として県内外から 高い評価を受けている。

減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、皮ごと食べられる青摘みの
国産レモン「マリンレモン」。果皮の苦味が少なくさわやかな
香りが特長。

九州一の広大なやさしさ
佐伯市 Saiki Spirit

さいきブランド

海、山、川という豊かな自然に囲まれ、豊富な食材に恵まれる佐伯市では、その特色を活かした農林水産業や関連産業が盛んに行われてきました。それらの特産品の中から、市民に愛され市民が誇りを持てる宝を認定するブランド推進事業「さいき殿伝（でんでん）」を実施しており、公募により集められた中から農水産物や加工品、菓子類など合わせて77品目もが認証されています（平成27年）。さいき殿伝に代表される「佐伯の食」を活かし、「食観光」の視点で、より多くの人々に佐伯の食の魅力を知っていただけるような取り組みにも力を入れています。

佐伯寿司やかぼすブリ、かぼすヒラメ、あつめしといった海の食から、雪ん子寿司やしし鍋などの山の食に加え、佐伯ならではのスイーツや地酒、天然素材を使った調味料など、豊かな食文化の継承とさらなる発展を目指しています。

佐伯市は豊富な魚介類が獲れることに加え、海に迫った山々から吹き降ろす冬の“からっ風”が、干物づくりに適した環境を育んできた。その伝統を今の製法に生かしながら、魚の鮮度、使う塩などにこだわり、おいしさを追求している。

佐伯の殿様 浦でもつ
浦の恵みは 山でもつ

さいき殿伝
SAIKI DENDEN

さいきブランド認証「さいき殿伝」

佐伯を代表し、市民に愛され、市民が誇りを持てる佐伯のお宝を全国へ広めたい。そのような思いから、平成24年にスタートしたのが、さいきブランド認証制度「さいき殿伝」です。佐伯市ブランド流通促進協議会では、この「さいき殿伝」の認定・認証を推進し、県内外へ情報発信しています。また「さいき殿伝」認証品は、ふるさと納税に対するお礼の品としても好評を博しています。

いきいきさいき佐伯んし人

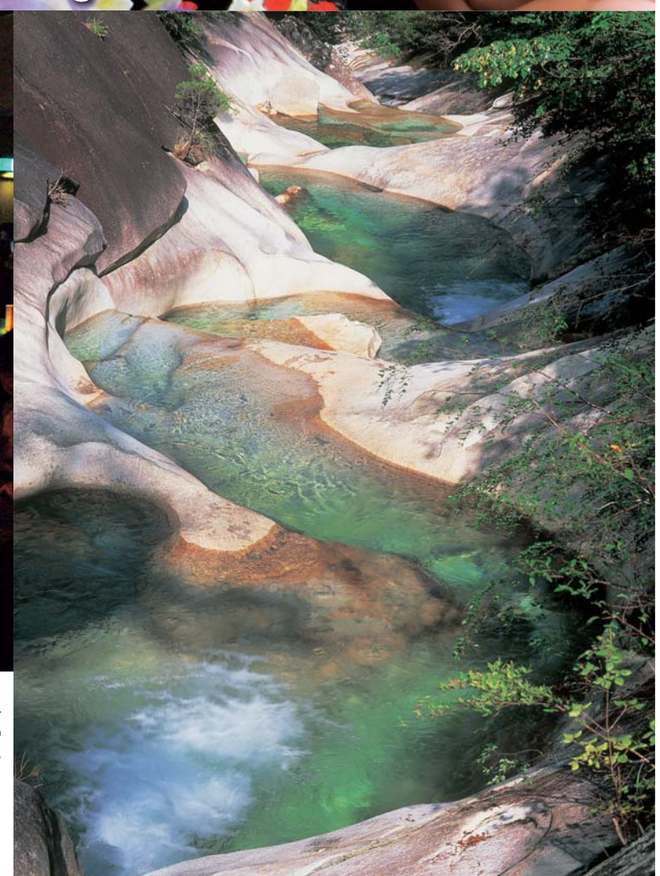
佐伯市ブランド
流通促進協議会会長
高橋治人さん

佐伯の豊かな山と海が育んできた農林水産物を全国に広めようとスタートした認証制度「さいき殿伝」では、佐伯を代表し、佐伯市民に愛されているお宝の発掘はもちろん、意欲のある生産者を育てたいという思いも込めています。佐伯に根付いている伝統的な加工品は素晴らしいものが多く、その付加価値を上げるためにパッケージ改良の支援といった販売戦略にも力を入れています。県外のホテルで、佐伯の特産品のみで料理を作ってもらったり、関東の方から料理人やマスメディア関係の方々を招いて豊かな食材を見ていただいたりと、県境を越えてのPR活動も積極的に行っているほか、販路拡大のための新商品開発や百貨店での販売促進にも取り組んでいます。

美しき自然と
まちを守り、
次世代へ紡いでいく

花のあるまちづくり

キャンドルナイト



大分、宮崎県境にある「祖母傾山系（そぼかたむきさんけい）」の、国連教育科学文化機関（ユネスコ）認定エコパーク（生物圏保存地域）登録を目指す。（写真は藤河内渓谷）

さいき903エコ推進会議と市が共催する、市民による一斉清掃活動「さいき903クリーンアップ大作戦」。市民への認知を図り、積極的に参加してもらうことで、環境づくりに市民が一体となって参加するまちを目指す。

九州一の広大なやさしさ
佐伯市 Saiki Spirit

環境

九州有数の清流である番匠川や祖母傾国定公園をはじめとする自然に恵まれた佐伯市では、それらを守り未来へ受け継ぐさまざまな試みに力を注いでいます。平成20年3月に策定した「佐伯市環境基本計画（さいき903エコプラン）」に基づき、市民、事業者、行政が一体となって環境保全を推進。「さいき903クリーンアップ大作戦」では市民自身の手によるごみ回収が行われています。また貴重な原生林や希少動植物が見られる祖母傾山系のユネスコエコパーク登録を目指し、関係自治体と連携した普及活動やユネスコ国内委員会への働きかけを進めています。

平成26年にはバイオマス産業都市の認定を受け、バイオマス産業を軸とした環境に優しく災害に強いまちづくりを進め、クリーンエネルギー産業の創出を目指しています。ほかにも、花のあるまちづくりや大分県キャンドルナイトへの参加など、多岐にわたる方面から環境保全に努めています。

各地域で自発的に行う環境美化活動や緑化活動、再生資源に係る回収活動など、地域に根ざした環境保全活動を展開している。

いきいきさいき佐伯ん人

源流の郷
ウォーキングクラブ
柳井忠臣さん

本匠地域の佩楯山（はいだてさん）の環境悪化が危惧されていた昭和53年から登山愛好会で森林清掃活動を行い、その後も環境保護や健康保持を目的としたイベントに力を入れてきました。平成13年には「源流の郷ウォーキングクラブ」を結成し、市内沿道のごみや空き缶を拾いながら歩いて地域美化を推進。番匠川の清掃活動を行う番匠川クリーン大作戦を提唱する活動を通じ、清流番匠川を守る運動への意識を高め、地域一体となった取り組みを推進しています。このような活動が評価され、平成21年には国土交通大臣表彰を受賞、平成24年には、地球環境の美化に関して特に顕著な功績のあった人を表彰する地域環境美化功績者を受賞しました。

確かな備えと高い防災意識で「災害に強いまち」を目指す

「命をつなぐ道」として期待される東九州自動車道と佐伯堅田IC周辺。隣接する総合運動公園と防災・避難広場は、防災拠点の機能を備える。

生き抜く力を次世代へ
小学校での防災マップづくり

防災関係機関がブースを出展
防災フェスタ

全市をあげて取り組む「地域避難訓練」

佐伯市消防本部

水防訓練

消防訓練

九州一の広大なやさしさ
佐伯市 Saiki Spirit

防災

東九州自動車道佐伯IC～蒲江IC間が開通し、宮崎県など他地域との距離が一層縮まりました。移動が便利になったことによる地域間の交流促進や、産業、経済の活性化はもちろん、緊急時の救命救急活動や救援活動を支える道としても大きな存在となることが期待されています。

山間部と海岸部の複雑な地形や多くの河川を有する佐伯市は、台風や土砂災害、津波といった自然災害を意識した備えにも努めています。防災情報システムや防災メールの運用のほか、避難路・避難地の整備や自主防災組織の結成、防災士の育成など、地域住民と一体となり意識を高めています。

平成22年には消防本部を鶴岡西町のコスモタウン内に建設。強い耐震構造とともに、あらゆる消防業務に迅速かつ的確に対応できる設備を備えています。また防災の拠点となる市役所の新庁舎は、県内の庁舎では初となる免震構造を採用し、浸水に備えて重要な設備を高層階に配置しています。

昭和60年から子どもたちの「夜回り活動」を行い、平成26年、総務省消防庁の「防災まちづくり大賞」で最高賞の総務大臣賞を受賞したムササビ少年消防クラブ

いきいきさいき佐伯んし人

宮野浦むらの覚悟委員会

水産加工業の施設が集中している米水津・宮野浦地区で地域防災力を高めようと、定期的な防災委員会や独自の避難訓練を開催。子どもたちの防災に対する意識を養うため、津波標語の募集、地震や津波に関するアニメ上映、小学生の避難所宿泊体験など多様な活動を行っています。このような活動が高く評価され、平成27年には佐伯市の団体として2年連続となる「防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞しました。まずは防災へ向けての行動を起こすことが、いざという時に地域の人の命を守り、津波や地震への防災意識の向上につながります。大分県の防災対策のモデルとして、ほかの地域への波及効果も期待しています。

保育所の子どもたち

子どもの健やかな成長と
高齢者の元気な微笑みを
全力でサポート

集いの場

3歳児健診

健康運動普及推進員と
身体を動かす体操教室

佐伯市赤十字奉仕団募金活動

九州一の広大なやさしさ
佐伯市 Saiki Spirit

保健・医療・福祉

佐伯市の住民登録人口のうち、65歳以上の人が占める割合は約35％（平成27年9月現在）と高齢化は年々進む一方です。高齢化社会への対策として展開している「さいきの茶の間」事業では、家に閉じこもりがちな高齢者等が気軽に集える憩いの場をつくり、介護予防や認知症予防を促進しています。さらに地域包括ケアシステムの構築により、在宅生活の不安の軽減や福祉の増進を図っていきます。

女性の社会進出や核家族の増加に伴う孤立化など、子育て世帯の環境の変化も起きています。佐伯市では、未来を担うさいきっ子が元気に育つよう、児童館や病児・病後児保育、地域子育て支援センターといった、地域一体となって子育ての意識を高める体制づくりに力を入れています。中学生以下の医療費を助成する「さいきっ子医療制度」にも取り組んでおり、保護者の経済的負担の軽減や健やかな子どもの育成を応援しています。また、障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、環境整備に努めています。

地域の身近な生活の場に、地域の人々が主体となって気軽に立ち寄れる「地域の集いの場」として運営する“さいきの茶の間”。公民館や集会所などにのれんを掲げ、交流の場として元気に活動している。

いきいきさいき佐伯んし人

ころころHappy
足利悦子さん

お子さんの発達障がいや困り事などを抱える母親がつくる「ころころHappy」では、悩み相談室「ころころHappyルーム」の開催をはじめ、小学校のPTAや職員研修へ参加して発達障がいについての啓発活動に力を注いでいます。そこでは講演や、不器用体験、視野がせまくなる体験といった多動性障がいのお子さんの疑似体験も実施。発達障がいへの正しい理解を広めるとともに、発達障がいのお子さんだけが特別ではないこと、またどのような言葉が心に響くのかという、すべての子どもに共通する子育てのヒントも届けています。「みんなHappyになぁれ」を合い言葉に心をバリアフリー化することで、子どもがより楽しく学べる環境づくりを目指しています。

地域の特色を活かした学び舎で
しなやかな人材を育てる

【宇目緑豊中学校】
佐伯らしさあふれる学び舎が特徴的な宇目緑豊中学校では、宇目の特産である木材がふんだんに使われ、木の表情を活かした温かな空間が広がっています。

九州一の広大なやさしさ
佐伯市 Saiki Spirit

教育文化

佐伯市では、平成24年度に佐伯市長期総合教育計画・中間年改訂版「さいき“まなび”プラン2012」を策定しました。この計画に基づき、人が学び、人が活き、人が育つ佐伯の教育を実践しています。

学校教育の分野では、人とつながり、「今」に全力投球する子どもの育成を目指し、魅力ある活力に満ちた学校教育を推進しています。また、国の教育課程特例校の認定を受け、中小規模校の強みを活かした小中一貫教育を市内各所で推進しています。よりよい環境で学べるよう、学校施設の耐震化は平成27年度に完了し、今後は市内全校にエアコンを設置するなど、快適な学校環境づくりに取り組みます。

また、社会教育や文化振興にも力を入れており、平成27年に開館した佐伯市歴史資料館は、佐伯市の歴史・文化を学ぶ中核施設としての役割を担うものです。

【佐伯市歴史資料館】
城下町佐伯の新たな文化・交流拠点として、地域の歴史に触れ、学ぶことのできる施設。常設展示のほか、様々なテーマで特別展を開催するとともに、歴史に関する体験学習教室や講演会などを行う。

いきいきさいき佐伯ん人

地域協育
コーディネーター

各地域の生涯学習活動を推進するとともに、学校・家庭・地域社会の協働による子育てを推進する「地域協育」。ここで地域と学校をつなぐ役割を担っているのが校区コーディネーターです。弥生地区で平成25年度に始まった「家庭教育支援事業」では、就学前の保護者を対象に、公民館などを会場にしてワークショップや子育ての先輩を招いた講座を開催。小学校に入学してから慌てないための子育てなどについて学んでいます。この取り組みは市内全域に広がり、参加者はすぐに実践できる知識を身につけられるだけでなく、地域での仲間づくりにもつながっています。

スポーツ立市として未来への夢が広がるフィールドに

佐伯市総合運動公園
1. 佐伯球場
2. 屋内プール
3. 総合体育館メインアリーナ
4. 陸上競技場
5. 多目的グラウンド（人工芝）

九州一の広大なやさしさ 佐伯市 Saiki Spirit

スポーツ

佐伯市は、水泳、野球、レスリングなど、多数のオリンピック選手やメダリスト、プロ選手を輩出しているスポーツ王国です。

市内各地にスポーツ施設があり、青少年から高齢者まで、幅広くスポーツや健康づくりの場として活用されています。

中でも佐伯市総合運動公園は、観客1万5,000人を収容できるオリンピック規格の野球場、サッカー等にも利用できる陸上競技場、一年中泳げる室内温水プール、テニスコート、弓道場、アーチェリー場、相撲場、全面人工芝の多目的グラウンドなど、さまざまな施設が充実。市民スポーツの場としてはもちろんのこと、これまでプロ野球のオープン戦や大学野球等のキャンプ地として、さらには2002年のサッカーワールドカップでチュニジア代表チームのキャンプ地となりました。

総合運動公園は、東九州自動車道佐伯堅田ICから車で1分の好立地であり、今後、宿泊研修施設の整備なども進む予定。ますます充実する環境を活かし、市民交流やキャンプ誘致など、スポーツによるまちづくりが進んでいきます。

サイキッズスポーツ体験教室

子どもの体力・運動能力向上を図るため、サイキッズスポーツ体験教室やコーディネーショントレーニング教室などを開催。

いきいきさいき佐伯んし人

陸上教室 指導員
成迫健児さん

400mハードルで日本歴代2位の47秒93という記録を持ち、北京オリンピック、世界選手権に出場（3回）した経験を活かして、地元で陸上指導員として活動。佐伯市全体の体力向上を図り、走ることの楽しさを実感してもらおうと、「サイキッズスポーツ体験教室」を開いています。幼稚園から小学校高学年までを主な対象として、ボール投げや跳ぶ練習といった体力アップのトレーニングを行っていますが、これまで選手として専門的なトレーニングを積んできたため分かりやすく伝えることの難しさを痛感しています。子どもには勉強や友達と過ごす時間も大切にして欲しいので、できるだけ飽きのこないプログラムを組んでいます。

「食のまちづくり」を進める佐伯市では年間を通して数多くの料理教室や食育講座等が開かれています。主催者は、官民や個人・団体を問わずさまざま。佐伯の誇りでもある「食」を楽しみながら地域づくりに取り組んでいます。（写真は母親クラブ「ほっとままま」による子ども食育教室の様子）

豊かなまちをつくるのは ふるさとを愛する豊かな人

ご当地メニューのアイディアを競う「さいき食のスター誕生！」

ご当地グルメでまちおこし！「佐伯ごまだしうどん大作戦」

佐伯人創造塾

佐伯の魅力ある資源を知り、それに誇りを持つとともに市内外に向けて情報発信し、その活用や保全に積極的に取り組む人々を、佐伯の地域づくり、活性化を担う人材として育成。

地域を学び、まちづくりに関わる「子ども会議」

九州一の広大なやさしさ 佐伯市 Saiki Spirit

まちづくり

「まちづくりは人づくり」との思いから、佐伯市では人材の育成に積極的に取り組んでいます。次世代の産業を担う企業や人材を育成する取り組み、歴史・食文化・自然環境など地域の素材を活かして地域づくりや情報発信を行う人材を育てる取り組み、さらには、子どもたちがまちづくりに関わる機会を持ち、まちへの愛着を醸成するための取り組みなど、その内容は多岐にわたっています。

また、人材育成とともに特に力を入れているのが「食のまちづくり」です。平成20年には全国でも珍しい「食のまちづくり条例」を制定。多彩な「佐伯の食」を発信するイベントをはじめ、食に関する講演会、地域の食材を学校給食に盛り込む「さいき活き活き献立の日」や「子どもがつくる弁当の日」などユニークな取り組みを実施しています。

市内で活動する個人・団体の活動拠点として、「まちづくりセンター“よろうや仲町”」などがあります。今後とも、市民活動を支える拠点施設のさらなる充実を図っていきます。

よろうや仲町

市民協働の拠点とすることにより、市民の社会貢献活動への参加や自立的な活動団体等の取り組みを応援する。

いきいきさいき佐伯ん人し

佐伯市食の伝導師
柴田真佑さん

常に心にあるのは「地域づくりは人づくり、人の礎は食にあり」という言葉。毎日の食事や食に関するさまざまな体験が心と体をつくっていく、という信念を一人でも多くの人へ伝えるため、佐伯市内外の幼稚園や保育園、高齢者施設などへ出向いて食育の講演に力を注ぎ、いつしか「食の伝道師」と呼ばれるようになりました。また、食を基盤にした活動を揺るぎないものにしていこうと、「食のまちづくり条例」の制定にも携わりました。食への感謝や家族の大切さを学んでもらうため、子どもたちがお弁当を自作して持ち寄る「弁当の日」を設けるなど、佐伯のまちが育む豊かな食文化を誇りに思える人を育てています。

さいき春まつり「竹灯物語」

つなぐ活気と伝統

佐伯市の伝統芸能とイベント

かぶとむし木登り競争大会

つるみ豊魚祭

椿原祭典・八匹原祭典

佐伯みなと火まつり

五丁の市（ジョーヤラ）

たかひら展望公園のじぎく祭り

木浦すみつけ祭り

豊後二見ヶ浦
しめ縄張り替え

大入島トンド火まつり

イベントカレンダー

春

3月下旬	やよい菜の花まつり
4月上旬	さいき春まつり
4月上旬	仙崎公園つつじ祭り
4月上旬	柳瀬チューリップ祭り
5月上旬	傾山山開き
5月上旬	マンボウフェスタ
5月上旬	新茶まつり

夏

6月上旬	本匠ほたる祭り
6月下旬	元猿・波当津海岸海開き
7月上旬	瀬会海岸海開き
7月中旬	かぶとむし木登り競争大会
8月上旬	佐伯みなと火まつり
8月下旬	堅田踊りの夕べ

秋

9月中旬	五丁の市（ジョーヤラ）
9月下旬	椿原・八匹原祭典
9月下旬	つるみ豊魚祭
10月下旬	米水津おさかなまつり
11月中旬	たかひら展望公園のじぎく祭り

冬

12月上旬	豊後二見ヶ浦しめ縄張替え
12月下旬～	豊後二見ヶ浦ライトアップ
1月1日	サンライズウォーク
1月中旬	トンド火まつり（大入島ほか各地）
1月中旬	上浦おせったい
2月中旬	木浦すみつけ祭り ※隔年

にぎわいと笑顔あふれるひととき

集い・ふれあい

佐伯市を周遊すると、
街・浦・里のいたる所に、
にぎわいスポットが点在しています。
ゆったり、のんびり、
佐伯の幸にふれながら、
たくさんの出会いのある旅に
出かけましょう。

散策や休憩ができる開放的な庭園、屋外から直接利用できる多目的トイレを備える。

佐伯市城下町観光交流館

昭和11年の建築とされる「つたや旅館」の建物を保存しながら、観光客や市民が気軽に休憩できる観光情報発信拠点として平成27年に整備。ギャラリーや観光情報コーナーを設置。

【戦争遺跡】

佐伯市平和祈念館やわらぎ

「佐伯海軍航空隊兵舎」の跡地にあり、軍都・佐伯の歴史から、世界に大きな傷跡を残した大戦について伝える貴重な資料が並ぶ。

旧佐伯海軍航空隊 掩体壕（えんたいごう）

米軍の空襲が激しさを増した昭和20年頃設置された。現存する2基のうち、1つは国の有形文化財に登録。

【湯】

かぶとむしの湯（鉱泉センター直川）

藤河内湯～とびあ

唄げんかの湯（木浦名水館）

やよいの湯（道の駅やよい）

【佐伯の特産品】

干物

すりみ

緋扇貝

岩牡蠣

いりこ

しいたけ

地酒

銘菓

いちご

【道の駅・里の駅・直売所】

浦

道の駅 かまえ

大分県最南端の海岸部の国道388号沿いにあり、すりみ、銘菓うずまき、緋扇貝、干物などが購入できる。レストランでは絶大な人気の海鮮丼も味わえる。

里

道の駅 宇目

大分県と宮崎県の県境近くにあり、猪（しし）肉やシカ肉、宇目産椎茸を使った料理が楽しめる。宇目特産の栗を使ったマロンソフトや名物からあげが人気。

道の駅 やよい

特産物販売所では、午前中には野菜などが売り切れるほどの人気ぶり。温浴施設「やよいの湯」、番匠川をテーマにした淡水魚水族館「番匠おさかな館」を併設。

街

里の駅 大入島食彩館

大入島散策のあとは、ここで一休み。島でとれた旬の素材をはじめ、特産品作り体験や食事ができる。

浦

しおさいの里

「ごまだしチャンポン」や「くろめギョウザ」など、上浦ならではの食材が堪能できる。土日祝日限定販売のすり身バーガーもお見逃しなく。

里の駅 つるみ農水産物直売所

鶴見、米水津でとれた活魚、加工品、農産物などを豊富に販売。食堂では海鮮丼も味わえる。

里の駅 たかひら展望公園

360度の大パノラマを望む山の上の展望公園。食堂ではごまだしうどん、季節ごとのソフトクリームを販売。サイクリングも楽しめる。

米水津ふるさと物産館 海風館（シーフーカン）

新鮮・厳選の魚を干物加工する水産加工団地のすぐそばにある。旬の魚を使った刺身定食や米水津自慢の水産加工品が充実。

かまえインターパーク

蒲江ICから近く、海を眺めながら新鮮な寿司や海鮮丼を味わうことができ、地元の新鮮な魚や野菜のほか干物などの加工品が並ぶ。水槽で泳ぐブリやタイなども買うことができる。

里

里の駅 歴史の里木浦名水館

豊の国名水百選の一つである蓮光寺湧水を利用したお風呂があり、レストランでは、しいたけめし定食など地元の名物料理が食べられる。

本匠農林産物直売所

特産の因尾茶をはじめ、雪ん子寿しや手作りまんじゅうなど、地元ならではの農産物加工品も人気。

水車茶屋 なのはな

本匠で収穫した夏そば・秋そばを使用した九割蕎麦は、自家製粉石臼挽きの手打ちが自慢。特産の因尾茶を使ったプリンやソフトクリームも人気。そば打ち体験もできる。

直川まるごと市場

「ほたる米」や味噌、かりんとうなど、直川の新鮮な野菜や安全・安心の加工品・特産品を販売。

直川憩の森公園 直川憩の森 ぱぴよん

地元の直見杉を使った木工製品、パンやからし椎茸の製造販売のほか、木工教室なども開催。

青い海 きらめく清流 豊かな緑。九州で一番広いまち 佐伯市

佐伯市MAP・アクセス

佐伯市へのアクセス

▶ 車

- 福岡 — 約2時間 — 大分
- 北九州 — 約2時間 — 大分
- 大分 — 約40分 — 佐伯市
- 宮崎 — 約1時間15分 — 延岡 — 約30分 — 蒲江 — 約20分 — 佐伯市
- 熊本 — 約3時間10分（国道57号） — 佐伯市

▶ 列車

- 博多駅 — 約50分 — 小倉駅 — 約2時間30分 — 佐伯駅
- 宮崎駅 — 約1時間 — 延岡駅 — 約1時間 — 佐伯駅
- 阿蘇駅 — 約3時間 — 大分駅 — 約1時間 — 佐伯駅

▶ 飛行機

- 東京 — 約1時間30分 — 大分空港
- 名古屋 — 約1時間15分 — 大分空港
- 大阪 — 約1時間 — 大分空港
- 大分空港 — 空港バス / 車 — 約1時間40分 — 佐伯市

▶ 船

- 大阪（南港） — 約14時間 — 別府港（別府市） — 車 約1時間20分 — 佐伯市
- 神戸 — 約12時間 — 大分港（大分市） — 車 約1時間10分 — 佐伯市
- 八幡浜 — 約2時間15分 — 臼杵港（臼杵市） — 車 約50分 — 佐伯市
- 宿　毛 — 約3時間 — 佐伯港（佐伯市） — 車 約3分 — 佐伯市
- 徳　山 — 約2時間 — 竹田津港（国東市） — 車 約2時間30分 — 佐伯市

平成26年2月に完成した新庁舎

佐伯市総合体育館

県内の自治体庁舎では初となる免震構造を取り入れています。

映画「釣りバカ日誌19」佐伯ロケ

東九州自動車道の開通

佐伯市10年のあゆみ

主なできごと

平成17年	3月	新佐伯市誕生
	4月	新市初の市長・市議会議員選挙（議員定数44）
	7月	合併記念式典実施
平成18年	4月	新佐伯市観光協会発足、本匠小学校・幼稚園開校
	5月	御手洗冨士夫氏が第11代経団連会長に就任（8月に新佐伯市初の名誉市民となる）
	6月	橋本正恵さんが内閣府「女性のチャレンジ賞」を受賞
平成19年	4月	市の花・木・鳥・魚制定
		上浦・本匠・直川・大島で小中一貫教育開始
		佐伯市総合体育館落成
	11月	「全国子守唄フェスタin佐伯」開催
平成20年	4月	佐伯市歌制定
		佐伯市あまべ商工会、佐伯市番匠商工会発足
	5月	映画「釣りバカ日誌19」佐伯ロケ
	6月	佐伯市民憲章～みんなの誓い～制定 非核・平和都市宣言制定
		東九州自動車道（津久見IC～佐伯IC間）開通
	9月～10月	「チャレンジ! 大分国体」開催（佐伯市でレスリング、弓道、軟式野球を開催）
	10月	「チャレンジ! おおいた大会（全国障害者スポーツ大会）開催（佐伯市で水泳を開催）
平成21年	4月	市長・市議会議員選挙（議員定数30）
	8月	大分県総合防災訓練を佐伯市で実施
	10月～11月	帆船日本丸寄港
平成22年	4月	宇目緑豊小学校開校（小中一貫教育開始）
	10月	佐伯市消防署が鶴岡西町に移転
平成23年	3月	東日本大震災発生 佐伯市からも多くの支援を行う
	4月	お笑いコンビ「ダイノジ」が「ごまだし大使」に就任
	6月	岡田重徳さんが全国乾椎茸品評会で農林水産大臣賞を受賞（以後、3回受賞）
平成24年	9月	塩月勝文さんがアームレスリング世界大会で2連覇達成
		客船にっぽん丸寄港
平成24年	11月	大分県南部地区総合防災訓練実施
平成25年	2月	東九州自動車道（蒲江IC～北浦IC間）開通
	4月	市長・市議会議員選挙（議員定数26）
	6月	浅利妙峰さんが内閣府「女性のチャレンジ賞」を受賞
	9月	佐伯ごまだしうどん大作戦が九州B-1グランプリでブロンズグランプリ獲得
	11月	漁村女性グループめばるの「ごまだしコロッケ」がNHKきょうの料理「新・ご当地レシピ部門」でグランプリ受賞
		本匠生活改善グループ「愛の里」の「雪ん子寿司」が、農林水産省「第1回地場もん国民大賞」で全国3位
平成26年	1月	ムササビ少年消防クラブが消防庁の「防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞
	2月	市役所新庁舎完成
	5月	大相撲の嘉風が佐伯市出身力士として初めて小結に昇進
	10月	「全国子守唄サミット&フェスティバル2014 in 佐伯」開催
	10月～11月	帆船海王丸寄港
	11月	「全国山頭火フォーラムin佐伯」開催
		「全国若手ものづくりシンポジウム佐伯大会」開催
平成27年	1月	小野正嗣氏が『九年前の祈り』で第152回芥川賞を受賞
	2月	宮野浦むらの覚悟委員会が消防庁の「防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞
	3月	市制施行10周年記念式典
		東九州自動車道（佐伯IC～蒲江IC間）開通
	5月	佐伯市歴史資料館・佐伯市城下町観光交流館開館
	7月	小野正嗣氏に市民栄誉賞贈呈（新佐伯市初）
	11月	嘉風雅継関に市民栄誉賞贈呈（新佐伯市2人目）
		緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練実施
	12月	大相撲佐伯場所を21年ぶりに開催
平成28年	1月	嘉風関が新関脇に昇進
	4月	米水津小学校開校

名誉市民

御手洗 冨士夫氏
（第11代経団連会長、蒲江出身）

市民栄誉賞受賞者

小野 正嗣氏
（第152回芥川賞受賞、蒲江出身）

嘉風 雅継氏
（大相撲関取、上灘出身）

市の花
【ヤマザクラ】

佐伯に春の訪れを告げるとても美しい花。市内全域で見ることができ、市民の心を和ませ、親しみあふれるものです。

市の木
【カシ】

照葉樹の代表種で緑の葉が生い茂り、市内全域で自生しています。古くは薪や炭、または身近な道具に利用され、なじみの深い木です。

市の鳥
【メジロ】

姿が可愛く、鳴き声もきれいで、佐伯市全域で見かけられます。子どもから大人までよく知られ、親しまれています。

市の魚 / 海【アジ】

佐伯の海で1年を通じて獲れる代表格の魚であり、県内漁獲量の約77％を占めます。また調理方法も多く、佐伯名物あじ寿司などでも市民に広く知られています。

市の魚 / 川【アユ】

清流の川に住み、躍動感あふれる鮎のイメージが自然豊かな佐伯市に合います。また鮎のチョン掛けは、佐伯地方に残る独特な捕まえ方です。

（平成20年4月1日制定）

友好都市
【邯鄲（かんたん）市/中華人民共和国】

平成6年4月3日提携

姉妹都市
【グラッドストン市/オーストラリア】

平成8年9月4日提携

友情都市
【ホノルル市/アメリカ合衆国】

平成15年12月8日提携

ごあいさつ

佐伯市長 田中利明

佐伯市は、九州の最東端に位置する、面積約903平方キロメートルの九州一広いまちです。山懐は「祖母傾国定公園」、沿岸は「日豊海岸国定公園」を形成し、山・川・海がもたらす豊かな恵みに満ちあふれています。また、各地域には特色ある歴史と伝統文化が息づき、多種多様な見どころを持っています。

ご案内のとおり、人口減少、少子高齢化など、地方自治体を取り巻く情勢は厳しさを増し、今後、地方創生の取組がいっそう求められるものと思われます。私は、産業・福祉・教育・防災をはじめとする様々な分野において、「佐伯がいちばん」をキーワードに、市民の皆様と手を携え、「オール佐伯」・「チーム佐伯」による「佐伯創生」に全力で取り組んでいるところです。

佐伯市市勢要覧は、佐伯市の姿をご紹介し、佐伯市をより知っていただくために作成したものです。本要覧をご覧いただき、佐伯の魅力を感じていただければ幸いです。

Greetings

Toshiaki Tanaka, Saiki City mayor

Saiki City is the largest city in Kyushu with an area of 903-kilometer square, located at the easternmost edge of Kyushu.
The mountainous area contains the “Sobo-Katamuki Quasi-National Park” and the coastline forms the “Nippo Kaigan Quasi-National Park”, filling the region with the abundance of the mountains, rivers and the sea.
Distinctive history and traditional culture are alive in each district, which provide richly varied highlights.
As you may already know, since the environment that surrounds local authorities are growing increasingly severe, with declining population, dwindling birthrate and a growing proportion of elderly people, further efforts for regional revitalization will be required.
I am working at full speed, hand in hand with all the citizens, to “revitalize Saiki” through “All Saiki” and “Team Saiki”, with “Saiki is best” as a keyword in a variety of areas, including industry, welfare, education and disaster prevention.
Saiki City Guide has been created to introduce Saiki City and to enable people to find out more about the city.
It would be a pleasure if people can sense Saiki’s charms through this guide.

致辞

佐伯市长　田中利明

佐伯市位于九州最东端，面积约有903平方公里，为九州面积最大的城市。
山间有“祖母倾国定公园”，沿岸有“日丰海岸国定公园”，充盈着山、川、海带来的丰厚恩惠。
同时，各地区还拥有别具特色的历史和传统文化以及其他各种精彩之处。
正如我们所介绍的，地方自治体受人口减少、少子高龄化的冲击使得形势越发严峻、今后的地方创生也显得更为迫切。
我正在产业、福利、教育、防灾为首的各领域，以“佐伯第一”为关键词，和各位市民携手，全力共建由“全佐伯”和“佐伯团队”所创造的“佐伯创生”。
佐伯市市况要览，就是为了介绍佐伯市、让您更好地了解佐伯市而制作的。
如果您能够阅览这一市况要览并感受到佐伯的魅力，我深感荣幸。

인사말

사이키시 시장　다나카 도시아키

사이키시는 규슈의 가장 동쪽에 위치하며, 면적 약 903제곱킬로미터로 규슈에서 가장 넓은 도시입니다.
산악 지역은 ‘소보카타무키 국정공원’, 연안 지역은 ‘닛포해안 국정공원’을 형성하여 산·강·바다가 엮어내는 풍요로운 자연으로 둘러싸여 있습니다.
또, 각 지역에는 특색 있는 역사와 전통 문화가 살아 숨쉬며 다양한 볼거리를 제공하고 있습니다.
안내드린 바와 같이, 인구 감소와 저출산 고령화 등, 지방자치단체를 둘러싼 정세는 더욱 어려워져 향후 지방 창생의 노력이 더욱 요구될 것으로 생각됩니다.
저는 산업·복지·교육·방재를 비롯한 다양한 분야에서 ‘사이키가 최고’를 키워드로 삼고, 시민 여러분과 힘을 모아 ‘올 사이키’, ‘팀 사이키’를 통한 ‘사이키 창생’에 전력을 다하고 있는 중입니다.
사이키시 시세 요람은 사이키시의 모습을 소개하고 사이키시를 보다 더 자세히 알리기 위해 작성한 것입니다.
본 요람을 보시고 사이키의 매력을 느끼시기를 기원합니다.